

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577300308		
法人名	社会福祉法人 平生町社会福祉協議会		
事業所名	ひらおみんなの家		
所在地	山口県熊毛郡平生町大字平生村618-2		
自己評価作成日	平成25年10月30日	評価結果市町受理日	平成26年5月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々と開放的な雰囲気の中で、お一人おひとりのペースを大切に過ごして頂いています。職員は常にお客様を人生の先輩として尊敬し、お一人おひとりの思いに寄り添い、一瞬一瞬の喜びを大切にしたいケアを提供しています。お客様の自己決定を大切に、一日一日を楽しく過ごして頂けるよう努めています。宿直、夜勤、緊急時の対応が整備され、職員の安心感につながっていると共にお客様にとっても他の職員との馴染みの関係を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

編み物、おやつ作り、毛糸のれん作り、毛糸でしめ縄作り、雑巾縫い、ボタンつけ、繕い物、アイロンかけ、トランプ、カルタ、ラジオ体操、ストレッチ体操、口腔体操など、活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をされている他、起床時間や朝食時間、入浴の時間など本人の暮らし方の希望や意向を把握され、一人ひとりのペースを大切にされて寄り添いながら日々の暮らしを支援しておられます。夜勤者と当直職員を配置され、夜間2人体制にすることで、利用者や家族、職員の安心に繋げておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を全職員で作成し、事業所内に掲示して、共有している。ミーティング時には、実践できているか話し合っている。	事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示し、朝礼やミーティング時に話し合い、全職員が理念を共有して、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じ、構築できるよう努めている。法人主催の祭りでも地域の人と交流できるよう努めている。十七夜祭りでは、家族と一緒に参加し、交流を深められるよう支援している。	自治会の清掃活動に職員が参加している。利用者はスーパーでの買い物、地域の夏祭りや文化祭への参加などで地域の人と交流している。十七夜祭りは家族も参加している。法人主催の祭り(あいあいフェスタ)に近隣の人を招待したり、法人の就労支援施設を利用する地域の人と畑づくりをするなど、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護についての悩みを話し合える場を設けるようには努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価結果については、出来ることから改善に取り組むようにしている。新人職員に対しては、OJTシートを活用している。	自己評価は管理者と主任でまとめたものを回覧し、職員から意見を聞いているが、業務の改善につながる意見は出ていない。評価を活かすまでには至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員での自己評価への取り組み ・項目の理解と活用の工夫
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の報告や行事などの話し合いが行われている。そこで出た意見は、サービスに生かされるよう取り組んでいる。	年3回開催している。利用者の状況、避難訓練や行事の報告、外部評価結果等について報告して話し合っている。メンバーの参加が少なく意見を活かすまでには至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数の検討 ・メンバーの拡大 ・運営推進会議を活かした取り組み
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談しやすい連携体制が構築されており、サービスの質の向上に取り組んでいる。	町の担当課に、電話や直接出向いて相談し助言を得ている他、災害時についても話し合い、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。玄関、居室とも日中は鍵をかけておらず、自由に入出りできる環境にある。	マニュアルがあり、内部研修で学び身体拘束をしないケアに取り組んでいる。気づきがあれば朝礼で伝え、新人職員にはOJTシートを活用し先輩職員が指導している。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のないケアに関心を持ち、細心の注意を払いながら防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に行っており、知識を深めるようにしているが、関係者と話し合い、活用できるような支援には至っていない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし、理解・納得してもらっている。家族の不安や疑問点には、常に相談しやすい環境に努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口・担当者・外部機関を明示し、苦情処置の手続き明確に定めている。	苦情相談窓口を明示し、手続き方法を定めて、利用開始時に家族に説明している。面会時や電話、連絡帳で家族からの意見や要望を聞いている。出た意見は連絡ノートで全職員で共有している。運営に反映するまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	なるべく職員の意見や提案を聞く場を設け、その意見が反映できるよう努めている。	毎月のミーティングや年2回個別面談等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日々の業務の中で聞いている。職員から出た意見で、個人用のボックスを設置し、研修資料の配布などに活用しているなど、反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入している。評価結果を個人に伝え、各自が向上心を持って働けるような環境作りに努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、研修委員が中心となって、推進している。法人が行う新人職員研修や事業所が実施する部内研修や外研修にも参加し、働きながらトレーニングしていけるよう配慮している。	外部研修の情報を伝え、希望や段階に応じた参加の機会を提供している。法人研修は年2回接遇やストレスマネジメント等について学び、復命している。内部研修は、研修計画を作成し、全職員にアンケートを取ってテーマを決め、年3回開催している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、本人や家族の気持ちを聞き、安心して生活できるよう配慮している。また、入所前にショートステイも利用してもらいながら徐々に馴染んでもらうようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に本人、家族の意向を聞き、安心して生活できるよう配慮している。事業所の見学やショートステイも利用してもらっている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に本人・家族等との話し合いの場を設け、家族の意向を聞き、その情報を職員間で周知徹底するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや片付け、洗濯物たたみ、掃除、散歩、団らんなど、日々を共に暮らしながら、体験や喜怒哀楽を共有し、本人から学んだり、支え合う関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向を汲み取りながら、家族へその思いを伝えている。職員と一緒に課題にも取り組むようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人や親戚が訪ねて来られた場合には、その時間を大切に、関係が途切れないよう支援に努めている。	知人や友人の来訪、手紙や電話の支援、家族の協力を得て、お墓参り、自宅の草引き、法事への参加、外泊、馴染みの美容院の利用、買い物に出かけるなど、関係が継続できるように支援に取り組んでいる。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話に常に耳を傾け、険悪なムードにならないよう配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他機関との連携を深め、相談等があれば各々窓口を紹介している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話や様子からも思いや意向を把握し、朝礼やミーティングで職員間で共有しながら本人本位に検討している。	センター方式を活用している他、日常の会話の中で何気なく出た言葉を記録に残し、思いや意向の把握に努めている。利用者の希望で外出計画を立て出かけている。困難な場合は本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活歴や意向に沿うように介護計画を立てている。また、職員の対応を統一できるように情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのケースに様子や心身状態等記述し、その情報を職員間で把握し、共有している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、作成にあたり職員全員と日々の気づき、身体の変化等について話し合い、その意見を計画に反映させている。	利用者の希望、かかりつけ医や家族の意見を事前に聞き、ミーティングで話し合い介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、見直している他、状態に変化があった時は、その都度見直し、現状に合った介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケースに、各々のバイタル、体調の変化、食事量、排泄、水分量など細かく記述している。夜勤者との申し送りや朝礼時に情報の共有を行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たに生じるケースに対してミーティングを行っている。なるべく柔軟な支援が出来るように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にはなるべく参加して頂くように努めている。社会との関わりをもって頂き、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、各々にかかりつけ医をもっており、事業所の協力医である内科医師は週に3回、精神内科医は、2週間に1回訪問診療を行い、健康観察や健康管理にあたっている。	利用者の希望するかかりつけ医への受診の支援をしている。協力医療機関の往診(内科医週3回、精神科医2週間に1回)がある他、他科への受診は家族の協力を得て支援している。医師へ情報を提供し、家族へ受診結果の報告をしているなど、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝礼や申し送り時にその日の状況、体調の変化・注意点など、全職員に伝え、周知徹底に努めている。体調の変化・異常があれば早めに家族へ知らせ、受診につなげるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されると、情報交換や相談に極力努めるようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制をしいており、利用開始時に方針を説明している。かかりつけ医の意見や本人・家族の意向を尊重し、その都度話し合いを行い、対処している。	利用開始時に家族に方針を説明している。実際に重度化した場合は、かかりつけ医や家族と話し合い、他施設や医療機関への移設も含め方針を決めて、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	各マニュアルが整備され、職員で共有している。ヒヤリ・ハットや事故事例はミーティングや朝礼で話し合い、事故防止等を検討し、介護計画に反映している。	マニュアルがあり、ヒヤリハット、事故報告書で状況を把握し、再発防止策を検討している。全職員が吸引器を使えるように看護師による研修をしているが、全職員が実践力を身につけるための初期対応や応急手当の訓練は定期的に行っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。法人内の協力体制は整っているが、地域への働きかけは、運営推進会議でも議題に上がり、協力はお願しているところではある。	年2回、避難訓練を昼夜想定で実施している。運営推進会議で話し合っているが、地域の協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いを心掛け、お客様の誇りやプライバシーを損ねるような声かけはしないように配慮している。	新人研修、接遇研修で全職員が学び、理解している。利用者を人生の先輩として敬い、言葉かけやプライバシーへの配慮に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、その都度皆様がどのようにされたいか意向を伺い、自己決定できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのようにされたいか、自己決定を大切に、お一人おひとりの意向になるべく添うように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、洋服選びは本人に任せている。就寝時は持参されている化粧水でお肌を整えられている。散髪を希望される時は、その旨をご家族へお伝えし、身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はお一人おひとりの起床時間に合わせて個別に対応している。夕食は、職員も一緒に食べ、調理や片付け等、出来ることは職員と一緒にしている。	日曜日以外の昼食は配食を利用している。朝食と夕食、日曜日の昼食は事業所で調理している。利用者は、食材の下ごしらえ、味見、食器洗い、台拭きなどできることを職員と一緒にしている。巻きずしやおはぎ、ホットケーキ、おやき、誕生日ケーキのデコレーションをしたり、ティータイム、カレーのケイタリングなど、食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を毎食後、記述し、お一人おひとりの状態の配慮をし、その情報を職員間で共有している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お一人おひとりの口腔状態に合った声かけをし、口腔ケアの支援に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人おひとりの排泄のリズムを把握できるよう努め、失敗されないように早目に声かけをし、トイレでの排泄ができるよう支援している。	日々の介護記録の排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導をして、トイレで排泄が出来るように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維の多いものを取り入れ、調理も工夫している。また、腸の働きが良くなるように運動も取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、お一人おひとりの意向を大切に、決して無理強いをしない。体調やその時の状況によっては、午後からの入浴の支援をしている。	月曜日から土曜日までの、9時30分から11時30分の間入浴可能で、利用者の希望を聞きながら入浴が楽しめるように支援している。希望があれば午後も入浴できる。状態に合わせてシャワー浴、清拭、足浴の支援している。入浴をしたくない人には、声かけを工夫したり、時間を変更するなどしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を大切に、午睡される方は休んで頂いている。就寝時間も今までの生活リズムを大切に、安心して気持ちよく眠れるような環境作りに努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、薬の目的や副作用について把握し、職員間で共有している。必要な情報は、主治医にフィードバックしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を把握し、今出来ることに着眼している。お一人おひとりに合わせた役割、楽しみを見つけだし、自信を取り戻せるよう努めている。	畑の水まき、洗濯物干し、洗濯物たたみ、アイロンかけ、編み物(マフラー)、裁縫(雑巾作り、ボタンつけ、繕い物)、糸糸を使ってしめ縄作り、塗り絵、ちぎり絵、トランプ、カルタ、ドリル(計算・漢字)、ラジオ体操、ストレッチ体操、口腔体操、テレビ(歌、バラエティー、相撲)、DVD鑑賞、読書(本・雑誌・新聞)など、一人ひとりに合わせた楽しみごとや活躍できる場面づくりの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所への散歩、ドライブ、花見、花火大会など、なるべく戸外に出かけられるよう支援している。毎年、行われる花火大会は、家族との交流の場となっており、花火を鑑賞されるなどして楽しんでおられる。	近所の散歩、スーパーへの買い物、フラワーランドへのドライブ、花見(桜・紫陽花)、文化祭(菊花展)、毎年の恒例行事となっている家族と一緒に花火大会見物など、家族の協力を得ながら、外出が出来るように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお金を使うことがないため、家族が管理している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話があれば、本人と話をしてもらうこともある。手紙のやり取りは自由に書いて頂くよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的なリビングには、ソファが置かれて、利用者同士の団らんがみられる。天気の良い日には、テラスに移動し、季節感を味わいながら、おやつを召し上がって頂くこともある。	共用の空間は、明るく開放的で、温度や湿度、光、匂いなどに配慮している。リビングに置いたソファの好きな場所でくつろげるように工夫し、季節の花を活けて季節感を感じられるように配慮している。テラスも活用し、天気の良い日はおやつを食べたり、外気浴をしたり、居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方の思いを大切にし、お一人おひとり自由に共有の空間や部屋など、行き来できるよう努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っておられた家具を使用し、ご家族の写真や観葉植物、お花、ぬいぐるみ等が飾られ、安心して生活できるよう支援している。	使い慣れた、箆笥・机・椅子・ソファ・ベット・テレビ、生活用品を持ち込み、家族の写真や観葉植物、花、ぬいぐるみ等を飾って、利用者が安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干し、洗濯物たたみ、部屋の掃除、皿洗いなどを職員と一緒にやっている。なるべく本人の思いを大切に、安心して自立した生活が送れるように支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 ひらお・みんなの家

作成日：平成 26 年 5 月 16 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	運営推進会議の開催回数が少ない。	開催回数を増やし定期的に開催する。	開催回数を増やし会議の内容を充実させる。会議で出た意見をサービス向上に活かす。	1年
2	35	事故発生時に備えての応急手当や初期対応の訓練を行っているが定期的に行えていない。	全職員を対象に訓練を定期的実施する。	全職員が応急手当や初期対応を今以上に身につけられるよう訓練の回数を増やし定期的に行う。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。